

石井周庵 いしかわ 儒者。天保六年上總國山邊郡清名幸谷村生れ、明治二十六年九月五日歿（八五—一九〇三）。講一素、通稱音守。書齋名白水草廬。農家い生れるも足疾あつて農業を好まず、幼より學ぶ志して三上尾庵の門に入り、師の晩年まで隨從。明治十五年東京芝二田に卜居して時習學會を創設し、漢籍を教授。翌年同門の士と謀つて道學協會を創設、機關誌『道學協會雜誌』全七十二號、次で『道學雜誌』全六十ニ號を發刊。また『道學遺書』として先達の著書十六種を刊行した。斯學の衰退、歐化思潮に抗したへ山崎學（聖齋派）最後の碩學（池上幸一郎）。『道學階梯』二卷、『周庵雜錄』二卷、『周庵先生講義錄』二卷、『默齋先生小傳』二卷等の著述、門人家藏すと。田中謙藏（蚊湖）撰『石井周庵先生傳』（昭和十一年七月一日默齋學會藏版）がある。

